

都市再生整備計画 事後評価シート

片山津温泉地区

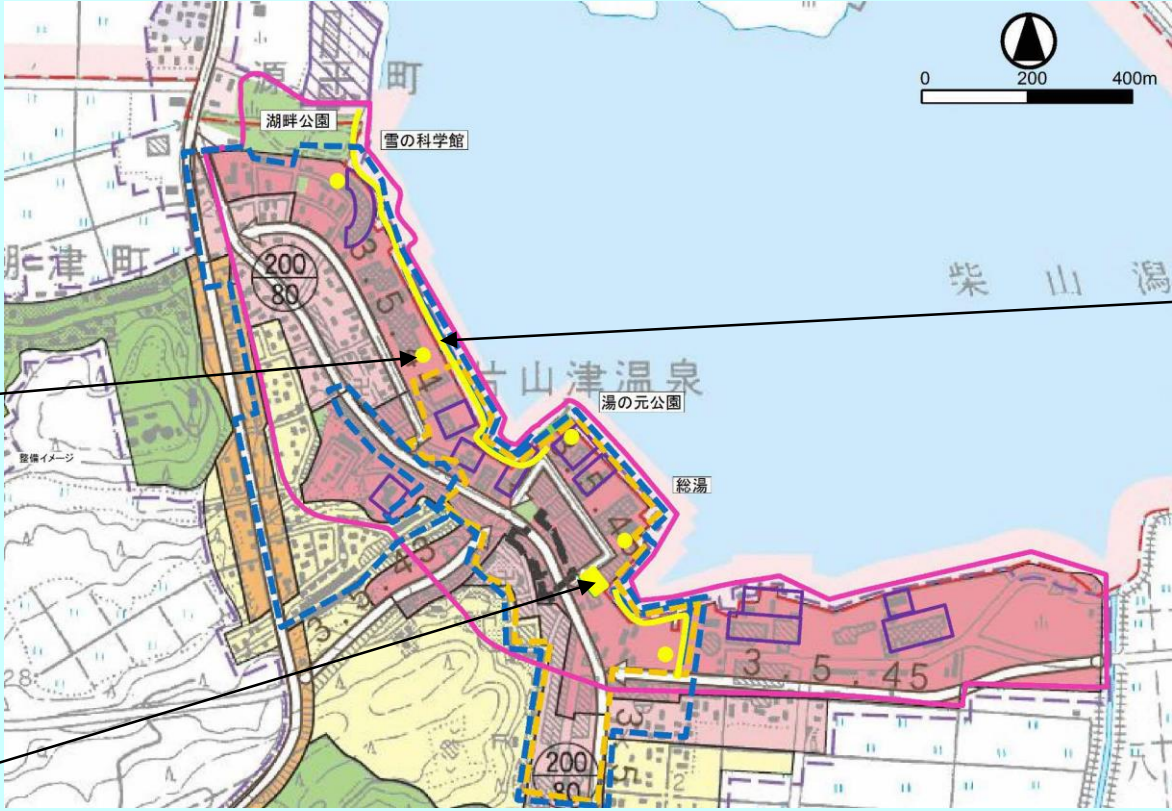
令和4年7月

石川県 加賀市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	石川県	市町村名	加賀市	地区名	片山津温泉地区			面積	41.0ha					
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	421.95百万円	国費率	44.1%							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名												
		基幹事業	【地域生活基盤施設】駐車場整備、【地域生活基盤施設】情報板整備、【高質空間形成施設】遊歩道整備											
		提案事業	【事業活用調査】事業活用調査											
	当初計画から削除した事業 新たに追加した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	－			－			－					
		提案事業	－			－			－					
		基幹事業	－			－			－					
	提案事業	－			－			－						
	交付期間の変更	当初	平成29年度～平成31年度(R1)	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし									
		変更	平成29年度～令和3年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	片山津温泉外国人観光客数	人/年	18,161	H28	20,000	R3		33	△	あり ● なし	外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくりに取り組んだが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、インバウンド観光需要は途絶え、当地区における外国人客数も大幅に減少した。	－	
	指標2	雪の科学館入館者数	人/年	25,852	H28	26,000	R3		13,632	△	あり ● なし	湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにより、回遊性を向上させ、雪の科学館の入館者は増加傾向に転じたが、新型コロナウイルス感染拡大による旅行需要の低下やそれに伴う宿泊施設の休業などの影響により、大幅に減少した。	－	
	指標3	遊歩道通行者数	人/10h	197	H28	300	R3		187	△	あり ● なし	白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくりと湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにつながったが、新型コロナウイルス感染拡大、総湯改装工事による休館も影響し、目標値を下回った。しかし、感染リスクの少ない屋外レジャー活動に対するニーズの高まり等から、横ばい傾向に留まった。	－	
	3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1													
	4)定性的な効果発現状況	・本事業により新しい観光コンテンツ(カヤック体験等)が開拓される等、柴山湯の利活用に対する機運が高まった。												
	5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
モニタリング		－			都市再生整備計画に記載し、実施できた									
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
住民参加プロセス		「柴山湯周辺整備委員会」の開催、遊歩道舗装材やサイン位置等の個別協議の実施。			都市再生整備計画に記載し、実施できた					今後も市民の意見を聞いて、関連事業等の連携を図る。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築		地元住民のほか、旅館事業者や地元観光協会が主体となったまちづくり活動の推進。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	今後も、旅館など沿線関係者や地元観光協会等、地元が主体となったまちづくりに対して連携を強化する。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

片山津温泉地区(石川県加賀市) 都市再生整備計画事業の成果概要							
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値	
【大目標】 柴山潟の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルートの創出 目標1 白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくり 目標2 湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり 目標3 外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくり		①片山津温泉外国人観光客数	単位:人/年	18,161	H28	20,000	R3
		②雪の科学館入館者数	単位:人/年	25,852	H28	26,000	R3
		③遊歩道通行者数	単位:人/10h	197	H28	300	R3
■提案事業 事業活用調査							
■基幹事業(地域生活基盤施設) 情報板整備							
■基幹事業(地域生活基盤施設) 駐車場整備							
■基幹事業(高質空間形成施設) 遊歩道整備							
まちの課題の変化		・湖岸に遊歩道を整備し、地区の優れた景観資源の活用と湖畔と温泉街を巡る散策ルートを確立した。 ・片山津温泉地区の誘導施設である総湯の隣接地に、来訪者のための観光駐車場を整備し、散策拠点としての機能を強化した。 ・増加する外国人観光客がまち歩きを楽しめるよう、散策ルート上に外国人に対応した外国語表記の情報案内サインを整備し、受け入れ環境の充実を図ることができた。 ・遊歩道のより効果的な利活用方法についての検討、観光駐車場の有効利用、情報板のICT(情報通信技術)によるサービス向上が事業によって発生した新たな課題としてあがった。					
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		・柴山潟の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルートを活かしたまちづくりの推進(まちづくり団体等による新規イベント、柴山潟から見える白山眺望を活かした観光まちづくりの推進、湖畔遊歩道延伸による散策ルートの拡充及び周辺環境整備) ・インバウンド観光の推進(新たな観光コンテンツの開発等、防災対策の強化・構築) ・遊歩道のより効果的な利活用を図る(遊歩道管理運用ルールの見直し) ・観光駐車場の有効利用(駐車場案内・誘導設備等の配置) ・情報板のICT(情報通信技術)によるサービス向上(情報連携の拡大(KAGA旅まちネット等))					

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	駐車場整備	10.0	1,200㎡	5.4	1,160㎡	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の減額。	指標への影響は生じない。	●	
	情報板整備	10.0	10箇所	3.7	5箇所	既存案内サインの活用による設置数の減少、情報板サイズの縮小化による事業費の減額。	指標への影響は生じない。	●	
高質空間形成施設	遊歩道整備	200.0	L=1,000m	414.6	L=1,000m	詳細設計及び沿線関係者との協議による安全・防犯対策のための増工や工法変更等に伴う事業費の増額。	指標への影響は生じない。	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	事業活用調査	2.0	事業効果の検証・評価と事業後のまちづくり方針の検討	2.3	事業効果の検証・評価と事業後のまちづくり方針の検討	精算設計の結果による事業費の増額。	指標への影響は生じない。	●	
地域創造支援事業									
まちづくり活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
街路事業								
都市機能立地支援事業								
社会資本整備総合交付金								

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
					基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	片山津温泉外国人観光客数	人/年	令和3年(2021)加賀市観光統計より、宿泊施設入込人数における発地別「外国」の令和3年1月から12月の集計値を評価値とする。			18,161	H28	20,000	R3	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	● 33	事後評価	△		
指標2	雪の科学館入館者数	人/年	令和3年(2021)加賀市観光統計より、市文化施設入館者数「中谷宇吉郎雪の科学館」の令和3年1月から12月の集計値を評価値とする。			25,852	H28	26,000	R3	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	● 13,632	事後評価	△		
指標3	遊歩道通行者数	人/10h	令和4年3月、湖岸遊歩道(浮御堂入口)の平日10時間(9:00～19:00)の歩行者数を計測する。			197	H28	300	R3	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定 見込み	● 187	事後評価	△		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくりに取り組んだが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、インバウンド観光需要は途絶え、当地区における外国人客数も大幅に減少した。評価値は目標に達していないが、コロナ以前の近年の傾向においては増加傾向にあることから目標達成度は△とする。	
指標2	湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにより、回遊性を向上させ、雪の科学館の入館者は増加傾向に転じたが、新型コロナウイルス感染拡大による旅行需要の低下やそれに伴う宿泊施設の休業などの影響により、大幅に減少した。評価値は目標に達していないが、コロナ以前の近年の傾向においては増加傾向にあることから目標達成度は△とする。	
指標3	白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくりと湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにつながったが、新型コロナウイルス感染拡大、総湯改装工事による休館も影響し、目標値を下回った。しかし、感染リスクの少ない屋外レジャー活動に対するニーズの高まり等から、横ばい傾向に留まった。評価値は目標に達していないが、地域全体での観光入込が大幅に減少している中、横ばい傾向に留まったことから目標達成度は△とする。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、 課題等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・本事業により新しい観光コンテンツ(カヤック体験等)が開拓される等、柴山瀉の利活用に対する機運が高まった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「柴山潟周辺整備委員会」の開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】4回 ※上記以外に遊歩道舗装材やサイン位置等について個別協議を実施(9回) 【実施時期】平成30年7月23日～令和3年9月10日 【実施結果】委員会を主とする地元関係者との協議により、沿線関係者との調整が円滑に進むとともに、地元まちづくり団体とスムーズに連携を図ることができた。	今後も市民の意見を聞いて、関連事業等の連携を図る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
本計画に関連するまちづくり活動	予定どおり実施した	●本事業により整備された施設を活用した継続的なまちづくり活動(施設管理、イベント実施等) ・ネイキッド夜さんぽ片山津温泉(開催期間：令和3年12月17日～令和4年1月16日 参加者数：約10,000人)	片山津地区まちづくり推進協議会 片山津温泉観光協会 片山津温泉旅館協同組合 等	今後も、旅館など沿線関係者や地元観光協会等、地元が主体となったまちづくりに対して連携を強化する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹職員(都市計画課、観光交流課)	令和4年5月	都市計画課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別									
指 標 名									
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	駐車場整備								
	情報板整備								
	遊歩道整備								
提案事業	事業活用調査								
関連事業									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指 標 名		片山津温泉外国人観光客数			雪の科学館入館者数			遊歩道通行者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	駐車場整備	－	外国人観光客が自然と温泉を楽しめるまちづくりに取り組んだが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、インバウンド観光需要は途絶え、当地区における外国人客数も大幅に減少した。	Ⅲ	△	湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにより、回遊性を向上させ、雪の科学館の入館者は増加傾向に転じたが、新型コロナウイルス感染拡大による旅行需要の低下やそれに伴う宿泊施設の休業などの影響により、大幅に減少した。	Ⅲ	△	白山眺望景観と水辺の自然空間を活かしたまちづくりと湖畔とつながるまち歩きが楽しめる温泉街の魅力づくりにつながったが、新型コロナウイルス感染拡大、総湯改装工事による休館も影響し、目標値を下回った。しかし、感染リスクの少ない屋外レジャー活動に対するニーズの高まり等から、横ばい傾向に留まった。	Ⅲ			
	情報板整備	△			－			－					
	遊歩道整備	－			△			△					
提案事業	事業活用調査	－			－			－					
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	コロナ禍が収束した後のインバウンド観光の回復に向けた取り組みを進める。	感染予防対策を講じながら、withコロナ・postコロナを見据えた新たなイベントスタイルを確立、受入環境の整備を強化する。	今後も地元住民、旅館事業者や地元観光協会が主体となり、柴山湯の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルートを活かしたまちづくりを推進する。
------------------	-------------------------------------	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹職員(都市計画課、観光交流課)	令和4年5月	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
白山連峰の眺望や柴山潟湖畔など優れた眺望景観を有しているが、柴山潟湖畔に温泉旅館が建ち並んでいるため、市街地から潟を望むことが出来ず、湖畔の温泉地として地域資源が活かされていない。	湖岸に遊歩道を整備し、地区の優れた景観資源の活用と湖畔と温泉街を巡る散策ルートを確立した。	-	・遊歩道について、安全管理上設けた時間制限により、朝晩のそぞろ歩きが楽しめない等の支障がでている。
柴山潟の水辺空間を重要な観光資源ととらえ、湖畔と湖上と温泉街をつなぎ、まち歩きが楽しめる湖岸の周遊ルートと、来訪者のための観光駐車場が必要である。	片山津温泉地区の誘導施設である総湯の隣接地に、来訪者のための観光駐車場を整備し、散策拠点としての機能を強化した。	-	・総湯駐車場と観光駐車場の識別が難しい、進入口が解りにくい等、駐車場の利用について改善が必要。
インバウンド観光の推進により、外国人観光客は増加傾向にあるが、外国人のまち歩きに対応した回遊環境の整備がされていない。	増加する外国人観光客がまち歩きを楽しめるよう、散策ルート上に外国人に対応した外国語表記の情報案内サインを整備し、受け入れ環境の充実を図ることができた。	-	・スマートフォン等との連動を強化する等、より良いサービスの導入が求められる。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	柴山湯の自然景観を活かした温泉街と水辺と歴史を巡る回遊ルートを活かしたまちづくりの推進	・今後も地元住民、旅館事業者や地元観光協会が主体となり、定期的なイベント開催等による賑わい創出、まちづくりを推進する。 ・柴山湯から見える白山眺望を活かした観光拠点の強化を目指す。 ・遊歩道アプローチのバリアフリー化や周辺駐車場の確保により、誰もが安全で利用しやすい環境を整えることで遊歩道の利用促進と回遊性の向上を図る。	・まちづくり団体等による新規イベント ・柴山湯から見える白山眺望を活かした観光まちづくりの推進 ・湖畔遊歩道延伸による散策ルートの拡充及び周辺環境整備
	インバウンド観光の推進	・インバウンド観光の回復に向けた取り組みを推進する。 ・観光客の災害や緊急時等の安全確保に努める。	・新たな観光コンテンツの開発等 ・防災対策の強化・構築

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	遊歩道のより効果的な利活用を図る。	時間制限の緩和について地元と沿線旅館等との話し合いを進める。	・遊歩道管理運用ルールの見直し
	観光駐車場の有効利用	駐車場利用について整理し、誘導方法等の改善を図る。	・駐車場案内・誘導設備等の配置
	情報板のICT(情報通信技術)によるサービス向上	観光・施設情報や多言語対応等、携帯端末利用者に対する情報提供の強化を図る。	・情報連携の拡大(KAGA旅まちネット等)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・令和6年(2024)春に予定されている北陸新幹線加賀温泉駅開業に向けた都市圏へのプロモーションの強化を図る。

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	片山津温泉外国人観光客数	人/年	18,161	H28	20,000	R3	確定	●	33	△	あり	→	—	—
							見込み				なし			
指標2	雪の科学館入館者数	人/年	25,852	H28	2,600	R3	確定	●	13,632	△	あり	→	—	—
							見込み				なし			
指標3	遊歩道通行者数	人/10h	197	H28	300	R3	確定	●	187	△	あり	→	—	—
							見込み				なし			
指標4							確定				あり	→		
							見込み				なし			
指標5							確定				あり	→		
							見込み				なし			
その他の数値指標1							確定					→		
							見込み							
その他の数値指標2							確定					→		
							見込み							
その他の数値指標3							確定					→		
							見込み							



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	観光統計データは、毎年計測している数値であることから、把握が容易であった。	毎年計測している既存データを数値目標に利用することは、モニタリングが容易になる他、事業以前の傾向を確認することができる等の利点がある。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	-	予想外の事態（コロナ禍などの外的要因等）が発生した場合でも、スムーズに効果発現要因の分析に対応できるよう、指標の追加も検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	各数値目標が観光入込に直結していることから、全ての指標において新型コロナウイルスの影響を受ける結果となってしまったため、評価する際に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	柴山潟周辺整備委員会を主とした地元関係者と協議を行ったことにより、事業を円滑に進めるほか、今後のまちづくりに対する参加意識を高めるきっかけとなった。	事業の進捗状況等の積極的な情報公開、住民参加の機会を創出することが望ましい。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

・今後、事後評価を予定する地区

本市においては、令和5年度に山中温泉地区、令和6年度に加賀温泉駅周辺地区において事後評価の実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年6月1日～6月14日 (2週間)	令和4年6月1日～6月14日 (2週間)	担当課への電話、 FAX、電子メール	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	都市計画課窓口による閲覧	令和4年6月1日～6月14日 (2週間)	令和4年6月1日～6月14日 (2週間)		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	金沢学院大学 教授 馬場先恵子	令和4年7月6日(水)	都市計画課	加賀市都市再生整備事業評価委員会設置要綱に基づく	独自に設置
その他の委員	片山津地区まちづくり推進協議会 会長 岡田豊 片山津温泉観光協会 会長 金子達郎 一般社団法人加賀市観光交流機構 佐野立子				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って事後評価が進められたことが確認された。
	成果の評価	・新型コロナウイルスの影響により、全て数値目標は達成できなかったが、影響を受ける前の傾向値や遊歩道を活用したイベントの開催、柴山潟を活用した取組等の効果発現状況による評価により、△とし判定したことについて、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・本事業により当初あった3つの課題については全て解決されたが、整備後の利用状況等により、新たな課題が見つかり、今後のまちづくり方策へ反映させるものとした。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・遊歩道のより効果的な利活用方法についての検討、観光駐車場の有効利用、情報板のICT(情報通信技術)によるサービス向上が新たな課題としてあがった。 ・今後のまちづくり計画に反映して欲しい事業として、柴山潟から見える白山眺望を活かした観光拠点の強化、遊歩道アプローチの段差解消や駐車場の整備、観光地における防災対策の構築について意見があった。
	フォローアップ	・新型コロナウイルスの影響の長期化が懸念されるためフォローアップは実施しないことについて異議なし。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・本評価委員会の意見を踏まえることで、概ね妥当として確認された。
その他		・指標1の片山津温泉外国人観光客数の目標設定について、結果をみるともっと高い設定でもよかったのではないかと意見があった。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--